



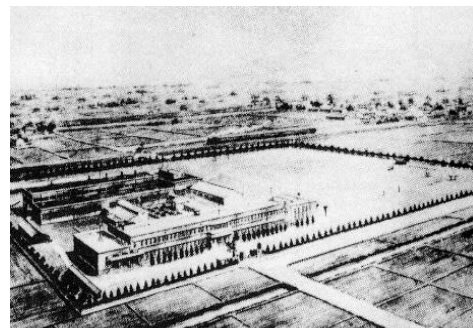
## 来年、3月に城工97年の伝統に幕がおります！



3年前に入学した時には、まさか母校の名前がなくなってしまうとは夢にも思いませんでした。電車通学の生徒は、絶対に目にしたことがあると思います、裏門に通じる通学路のフェンスに掲げられている6枚のポスター。あるポスター(左図)には「**城工100年に向けて**」「**2029年本校は100周年を迎えます**」と。このポスターの制作に図書部の先輩方が関わっています(2022/8/22発行:第166号)。2022/5/11発行の第163号では【城工100年へむけて】と題して、7年後100周年には在校生とし式典には参加できないが、自分たちも何らかの足跡を城工の歴史に刻みたいと書いてありました。おそらく先輩方も新校のニュースを耳にした時、

めっちゃくちゃ驚かれたことだと思います。

城工は1928/3(S3)大阪府立第四職工学校として設立。翌年1929/3、大阪府立城東職工学校として4月に開校。地域の工業人材の育成に重点を置いた学校が始まり。右の写真は、1930(S5)開校当時の校舎。よく見ると校舎の後ろを蒸気機関車が煙を出して走行しています。鴻池新田、大阪の豪商・鴻池家三代目・善右衛門宗利が新開池という名の大きな池の跡地を新田開発したのがこの地の名の由来です。大和川付け替え工事でできた新田の一つで、その中



でも最大面積をもつのが、鴻池新田。確か中学の社会の教科書に記載されていた記憶がかすかにあります(笑)。

今年4月に、東大阪みらい工科高校が開校しました。城工の敷地・旧校舎・施設を引継ぎ、**布施工科と城東工科の歴史と伝統、さらには両校から受け継がれる技術と工業精神は、この東大阪の、城東工科高校の地で【未来を拓く礎となる】**と願っています。



## 城東工科高校、ありがとう！

入学当初は、中学生気分が抜けず、工科生としての自覚がまだまだで学業の戸惑や不安が多々ありました。が、時間と共に次第に気の合う友人も増え、授業等を通じてさまざまな先生方との出会いが増えるにつれ、城工生活が心地よいものとなりました。読書が好きでしたので図書部に入部。初図書室だより(186号・2023/5/2)は、ワードを用いてのレイアウトやデザインや配色等初めての事ばかり。先輩に部顧問に教えを乞い、や〜っと完成。今となっては懐かしい〜(笑)。2作目からSDGsに特化した図書だよりに着手。187号(2023/6/2)では、海洋環境保全問題を取り上げ、マイクロプラスチックの環境破壊についてB4一枚にわかりやすく且つ簡潔な文章に仕上げるまでに約1ヶ月。何度も推敲を繰り返し、時間をかけて完成した日のことは、鮮明な記憶として刻まれ、達成感で心が満たされた瞬間でした。

2年時は、部員は上級生と私の二人。工業科目の勉学と部活の両立にすごく悩みました。物理的に放課後部活に割ける時間が激減。限りある時間で、如何に集中し工業科目の課題や図書室だよりの完成度を上げるか。苦難な状況下でも、言い訳しない、安易な方に逃げない決意した自分。その志と妥協との揺れのせめぎ合った一年。この4月から部員は、私一人に( ; ∇ ; )。今年は戦後80年という節目ゆえ、平和と人権をテーマとし最低でも月一枚ペースで発行すると決意。先輩方が目指したユネスコスクールに6月に認定。託されたバトンの責務を果たせ肩の荷があり、ちょっと安堵しました。

「図書室だより」を配布の折、校長先生・教頭先生、事務長先生をはじめ多くの先生方に、温かい言葉やお声がけいただき、超超超嬉しかったです。途絶えることなく発行し続けてきた努力が無駄ではなかったと思えた瞬間でした。自分に自信をもつことができました。気が付けば来月は卒業式。本当にあつという間の3年間でした。図書部のバトンの後輩に託すことができないのは、ちょっと残念です。

**4月からは社会人。城工での学び・体験・実践・経験し得た‘我が武器’を手に新たな世界で果敢にチャレンジしていきます!!!!**

私作「図書室だより」を3年もの間、読んでいただきましたこと、感謝申し上げます。

城工を選んだ3年前のワ・タ・シを褒めてあげようと思います。

文責:図書部部長 M3-2 N.Y